NPO日本アーカイブ協会

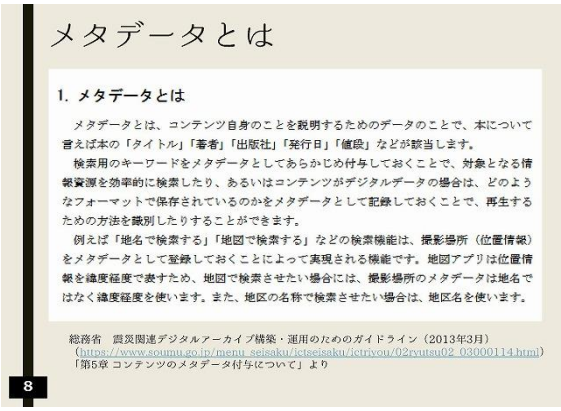
アーカイブ Data Report

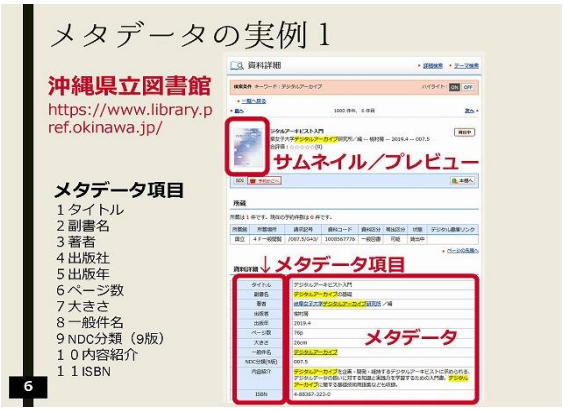
NO. 6

（2020 年 2 月 27 日）

〒500-8813　岐阜県岐阜市明徳町 10 番地　杉山ビル 5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com　URL:https://npo-nak.com

ANA Blue Base での準デジタル・アーキビスト資格取得講習会（2 月 23 日）で加藤真由美講師（岐阜女子大学沖縄サテライト校）がフィードバックの還元情報が記録できるメタデータについても説明されました。「沖縄おぅらい」の活用成果のフィードバックのメター データの利用例は、地方活性化や企業等でも使えると注目されました。





メタデータの役割

１つのデジタルアーカイブでは、資料データを同じメタデータ項目によって体系的に整理する。
この体系的な整理により、大量の資料群の効率的な管理と大量の資料群からの効果的な検索が可能になる。

＊体系的な整理・・・個々別々の情報を一定の条件に従って管理すること。
＊効率的な検索・・・データベースの重要な機能のひとつ

デジタル・アーキビストの使命
資料の価値を記録する

メタデータは、現在の活用者だけでなく、後世の活用者に資料が何であるのか、過去・現在における資料の価値を伝えるための情報でもある。
メタデータの収集は、伝承すべき資料の価値の収集（記録）といえる。情報社会において、メタデータが欠落した資料はその価値も失いかねないといえる。

1	ID
2	表題名
3	資料名
4	内容分類
5	分類コード
6	内容(抄録)
7	索引語
8	関連資料
9	種類
10	氏名
11	時代・年代
12	場所／地域
13	著作権／プライバシー
14	協力者
15	許認可
16	登録日／登録者
17	ファクトデータ
18	特色
19	活用支援(利用注意)
20	利用分野
21	改善結果
22	処理プロセス

これからの メタデータ項目

これは本学が作成したメタデータ項目である。
これまでの基本的なメタデータ項目の他に、情報社会が加速する今後、開発者の管理と活用者の利活用を考慮した新たなメタデータ項目を加えている。

■ 基本的なメタデータ項目
■ 新たなメタデータ項目

フィードバックを記録する メタデータ項目（主観）

特色	資料データの特色やアピールポイント等を記す。（活用者からフィードバックされた特色等も含む）
活用支援（利用支援）	活用の際の留意点や役立つ情報や利用方法について記す。（活用者からフィードバックされた実際の活用方法や内容も含む）
関連資料	活用者の資料へのより深い理解のために、関連する資料（URLなどのLinked Dataも含む）を添付する。

「沖縄おぅらい」活用者によるアンケートのフィードバック

活用方法など

修学旅行前に、各クラスで研修地調べを行う際に使用させていただきました。また、レシピ等も載っていたため、家庭科の授業の中で説明するのにとても役立ちました。
大きさも、バックの中に入れやすいサイズだったため、生徒も実際に修学旅行へ持参していました。

メタデータに記録し残していく

フィードバックを記録する メタデータ項目（改善と処理）

改善結果	実践での活用結果の評価から、フィードバックされた改善点や改善データを記録する。
処理プロセス	実践での活用結果の分析データや評価資料、また改善までの一連の処理プロセスについてのフィードバックを記録する。（デジタルコンテンツの活用計画や活用手引きなども含む）

「沖縄おぅらい」活用者によるアンケートのフィードバック

改善点など
・タクシー研修のモデルコースなどがあると、高校の修学旅行には助かります。
・(生徒は国際通りやアメリカンビレッジでの買い物が多く、文化、自然、歴史にもっと興味を持ってほしい)
・コラムなど、生徒が読みやすいものがあると興味がより湧くのではないかと思います。
・縮小版ではありますが、フォントがもう少し大きいと見やすいと思います。

◆自由記述（具体的にお書きください。）

アメリカンビレッジについて書いてほしいです。好奇心に人気があると思います。

メタデータに記録し残していく

フィードバックのメタデータ項目への記録

DAの課題：
DA資料データの利活用

DAが主観を記録する意義

メタデータの付与は、主にDA開発機関側が活用者の利活用のニーズを想定して行う。
しかし、実際に活用する活用者は、全く想定もしない方法で活用したり、思わぬ意見や感想を発することもありうる。

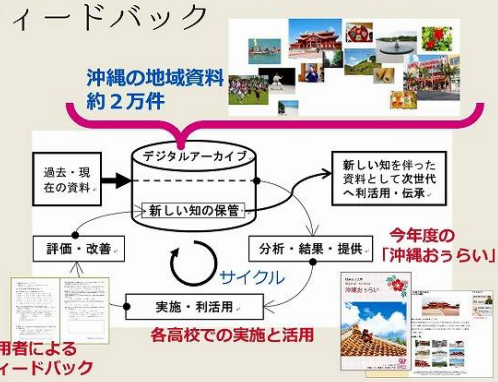
活用者からのフィードバックされる情報は主観であり、これまでの客観な視点からのメタデータだけでは、積極的な活用の促進にはつながりにくい。

実際の活用者からの情報をメタデータに記録することにより、新たな活用者の資料の活用を促進することにつながるだろう。

双方向性をもったフィードバックの実現

図　双方向性をもった還元システムの構成

知的創造サイクルと フィードバック



メタデータのまとめ

① メタデータの整備は、DAの構築・共有・活用において重要なステップである。
② メタデータ項目作成の際は、さまざまなメタデータ項目を参考にする。
③ メタデータ項目作成の際は、これからの視点を見越して盛り込む。
④ メタデータはすべてを公開するのではなく、公開と非公開（内部情報）とに分類する。
⑤ 実際の活用に役立てられるような、主観的な情報もメタデータに記録し、活用者に提供（フィードバック）する。